WEEKLY SIGNAL

平成27年3月13日(金) 1266号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	3/16(月)	3/17(火)	3/18(水)	3/19(木)	3/20(金)
無担保O/N			0.030%	~ 0.125%	
銀行券	+ 1,200	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 2,000
財政他	△ 6,800	+ 5,000	+ 8,000	ト ン	+ 25,000
資金需給	不 5,600	余 5,000	余 8,000	不 1,000	余 23,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行・償還(2年)				国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債発行(5・10・20・30年) 国債償還(5・10・20年)
オペ期日	CP買入 △ 400 社債等買入 △ 200 国債補完供給 + 200		貸出増加支援 △ 15,800		共通担保(全店) △ 5,700
オペスタート	ETF買入 + 300	短国買入 + 10,000	社債等買入 + 1,000		国債買入 + 10,500
(日本)	日銀金融政策決定会合(1日目) 業態別の日銀当座預金残高 (日銀)	日銀金融政策決定会合 (2日目) 黒田日銀総裁記者会見	金融経済月報(3月) 貿易収支(2月) 資金循環統計 (10-12月期速報)	国債投資家懇談会 対外対内証券売買(前週分) 全産業活動指数(1月) 鉄鋼生産(2月)	日銀金融政策決定会合 議事要旨(2月17、18日分) 公社債投資家別売買高(2月) 黒田日銀総裁講演 (日本外国特派員協会)
(海外)	米 NY連銀製造業景況指数 (3月) 米 鉱工業生産指数(2月) 米 NAHB住宅市場指数(3月) 米 対米証券投資(1月) 欧 ドラキ'ECB総裁講演 (フランクフルト)	米 FOMC(1日目) 米 住宅着工件数(2月) 欧 ユーロ圏CPI(2月、改定値)	米 FOMC(2日目) 米 イェンFRB議長記者会見 米 MBA住宅ローン申請指数 (13日終了週)	米 新規失業保険申請件数 (14日終了週) 米 経常収支(10-12月) 米 景気先行指標総合指数 (2月) 米 グラス連銀の フィッシャー総裁退任 欧 ECB経済報告	米 アトランタ連銀総裁講演 米 シカゴ連銀総裁講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.160

<インターバンク>

当座預金残高は週初、181兆円台で始まり、10日の国債買入、11日の短国買入によって週央で183兆円台に増加した後、週末には184兆円台で越週した。無担保コールON物の加重平均金利が週を通して概ね0.075~0.076%で推移したが、11日には一部市場参加者による0.12%台の試取りが散見されたことから、0.083%まで上昇した。ターム物は、1W物で0.11%台後半の出合が中心であった。期末を越える3W~1M物では目立った動きは見られなかった。10日、10年長期国債利回りは一時0.470%まで上昇し、2014年11月20日以来の高水準となったが、欧米金利が低下したことを手掛かりに低下して週末には0.410%で越週した。

また東京株式市場では13日、日経平均株価が終値で2000年4月19日以来、約15年ぶりに1万9000円台を回復した。ECBは12日、量的金融緩和を開始した9日から3日間で98億ユーロ相当の資産を買い入れたことを発表した。来週の材料は、国内では16~17日の日銀金融政策決定会合、海外では17~18日のFOMCが挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.080 ~ 0.090
TDB 3M	△0.005 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.080 ~ 0.100

<CP>

今週は、入札発行額は約4,800億円で、期落ち額約7,000億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。カード会社や情報通信系の大型案件が継続発行されなかったことで期落ち超となった。今週の3M物の入札発行レートは、0.090%台前半~0.100%台後半と、ほぼ横這い圏内で推移した。期内物の発行は0.100%台前半が中心で、期越え物との比較で高めに推移した。現先レートは、0.080%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約7,800億円となっている。

<TDB>

12日に国庫短期証券3M第518回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0020%(前回債0.0020%)、平均落札レートは△0.0004%(前回債△0.0004%)と前回債から利回りにほとんど変化はなかった。セカンダリは3Mで△0.004%近辺の出合い。6Mは△0.013%近辺の地合い、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週18日に1Y、19日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは0.02~0.025%の出合から始まり、週央まで概ね0.02~0.03%のレンジで推移。12日には短国3M入札が行われ、3月16~17日ではSNこそ0.025~0.03%の出合にとどまったものの、TN時点では0.045%まで上昇した。週末には短国買入オペが合計1兆円オファーされたこともあり、0.015~0.02%での出合をつけ越週した。SCは10年337回債が引き続きON物・ターム物ともに週を通して深いネガティブレートで推移した。ON物では一時△0.60%の出合も見られタイト化したが、週末には△0.10%近辺の出合も散見されるなど、需給に一定の改善が見られた。2年債は349回債、5年債は116・119・122回債、10年債は323・325回債、20年債は147・151回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。